

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷二十五第

月一年六十和昭

## 論 叢

國家科學としての經濟學……………經濟學博士 谷口吉彦

林子平とその經濟思想……………經濟學博士 本庄榮治郎

調査における統計の役割……………經濟學博士 蜷川虎三

我國經濟發達の特質に就て……………經濟學士 堀江保藏

公庫制の生成機縁……………經濟學士 徳永清行

道家の經濟思想……………經濟學士 種積文雄

## 研 究

シュピイトホフの景氣理論の批判……………經濟學士 青山秀夫

下請制工業の國民經濟的意義……………經濟學士 田杉 競

英國經濟學に於ける東洋社會の理論……………經濟學士 島 恭彦

## 說 苑

貿易統計の新しい任務……………經濟學士 有田正三

アツシニア紙幣……………經濟學士 河野健二

## 附 錄

彙報・外國雜誌論題

經濟學部

○本學部歐文紀要 (Kyoto University Economic Review) 第十六卷第一號は次の論稿を以て一月二十日に刊行せらる。(丸善發賣定價金壹圓)

Economic Fluctuations and Public Finance

Professor S. Shioml

The Development of the Study of the Economic History of Japan subsequent to the Meiji Restoration

Professor E. Honjo

The First Phase of the Bank of China as a Note-issuing Bank

Assistant Professor K. Tokunaga

A Critical Note on the D.H. Robertson's Theory of Savings and Investment

Assistant Professor II. Aoyama

Notes

經濟學會

○十月例会 十月二十二日(火)午後七時より樂友會館に於て開催され次の報告があつた。

一、支那警見

齋藤 一郎氏

慣行調査部の用向で支那へ出張された旅行談で、主として滿

鐵行調査部の調査狀況と現地調査に於ける種々の問題を擧げて、慣行調査の今後の方針に關して意見を述べられた。

二、日本資本主義について

柴田 敬 授

今日、日本經濟の革新が行はなければならないとするならば、その必然性は明治維新以後のわが國資本主義發展の經過の中に求められるであらうと述べられ、現在迄の資本主義の發展に於いて國家意志が如何に作用して來たかを中心の問題として、維新・第一次歐洲大戰後・及び現段階に於ける國家意志の在り方を、軍事工業と重工業體系整備の問題を主なる指標にとつて論じられた。

當日の出席者—高田、谷口、柴田、松岡、堀江、中谷、佐波、穂積、徳永、靜田、白杉、青山、田杉、鈴木、堀江(英)、憲容の諸先生。青盛、有田、上杉、大谷、岡部、岡本、尾上、大橋、河野、小泉、齋藤、三谷、山崎、尤の諸氏。

○十一月例会 十一月二十六日(火)午後六時より樂友會館に於て開催され次の報告があつた。

一、北陸機業の生産構造

堀江 講 師

絹織物機業における二つの形態—練絹織物に於ける西陣機業・關東機業と生絹織物に於ける丹後機業・北陸機業—について略述され、次に北陸機業特に石川縣の機業に於てその樞軸たる商業資本が如何なる形態で如何なる程度まで機業を支配してゐるかを問題にされた。

北陸機業に於ける商業資本の役割は三つの形態をとつてゐ

る。すなはち先づ第一に自ら比較的大規模工場を經營し、危險の少い一般品を製織し、第二に小規模工場を原料・製品市場から遮断してこれを賃機化し、危險の多い特殊品・變り物を製織させ、第三に極めて少數しか存在しない獨立機業家と自由な取引をしてゐる。従つて北陸機業に於ては商業資本がかなり産業資本に轉化し、これを樞軸として外業部を従屬させ、獨立機業家と取引してゐることを示された。

二、シュピイトホフの景氣理論 青山助教授

經濟論叢昭和十五年十一月記念論文集所載を參照されたし。

當日の出席者―沙見、高田、谷口、八木、大塚、堀江、中谷、徳永、白杉、青山、田杉、松井、出口、鈴木、堀江(英)の諸先生。有田、上杉、大橋、岡部、河野、齋藤、中西、山崎、尤の諸氏。

○會員動靜

會員名簿訂正

八〇頁 下欄 十七行目

誤 正

奥西安藏 中田利保